

## 「2017年」

2017年もそろそろ終わり。ということは、山形に来て8年目になります。振り返ってみれば、あんなこと、こんなことあったでしょう。人生経験として、とても有意義な時間を過ごしました。現在、活動中の協力隊、そしてOBとして山形に暮らす人たちは何を想っているのでしょうか？

そんなことは、僕が気にするようなことでもないですが、一つの例として、これまでを振り返ってみたいと思います。

## &lt;1年目(2011-)&gt;

人生初の移住・田舎暮らし。もともと、キャンプなどが苦手な人には、あまりにハードルが高い、吉島の暮らし。ここで、色々学んだわけです。もはや、全てがカルチャーショック。でも、自分で選んできたわけだから、ひたすら適応能力を鍛える

## &lt;2年目&gt;

ほぼ同期だった協力隊が離脱し、一人取り残される。新たに加わった協力隊はみな個性的で、やっぱり自分はむいてないと思い、自然写真ばかり撮るようになる。人との関わりも嫌になっている時に、「都会の人が、田舎の女を嫁にするときは婿しかない」論を浴びせられ、田舎で結婚は出来ないと悟る。イベントより盛り上がる飲み会により、全体力を消耗する

## &lt;3年目&gt;

協力隊をやめても、100%ニートになる予定だったため、協力隊を3年続ける。続けるからには、何かせねば！と思い、東沢の方々の協力もあり、それなりにアクションを起こすことが出来た。しかし、時既に遅し。来年度は、何かしなきゃ、ここにすらいられない！

## &lt;4年目&gt;

結局、この3年間は人生経験になったのだと、言い聞かせ、ハローワークに出勤していたところ、NCVから声をかけられ、1年間の緊急雇用で命をつないだ。長井市役所の臨時雇用は、ほぼ受かってたっぽいけど、意外と遠いから通えない。ラジオ番組にかかわる。

## &lt;5年目&gt;

そのままNCVのラジオをやる。会社らしい会社に2年もいられる自分に感動する。これも協力隊のおかげだと錯覚し、協力隊キター!!!と思う。ホントに。

## &lt;6年目&gt;

何だかんだで会社というのは忙しく。毎日、会社と家の往復という生活に腹が立ってくる。それも、協力隊の経験があったからで、普通のサラリーマンというのは、そうである。。。と落ち着く。

## &lt;7年目(-2017)&gt;

ホントに何だかんだで、まだ会社員をしている。こうしている自分に驚きつつも、よくできた人間になってきたと自覚する。それは人間的には最低レベルのことだったかもしれないが、その柔軟性を獲得したことは大きな進化だ。えっ!?何言ってるんだ、大袈裟な!だって!?

そーです。普通は大袈裟なことなんです。しかし、世の中には普通なことが出来ない人もいるのです。

と、振り返ってみると、わざわざ、文字にする必要のないことばかり(笑)でも、自分らしい。

中二病という言葉が近年、使われるように、大人になっても大人になりきれない人は、今も昔もいるわけです。しかし、どちらかというと、昔は大人らしくない大人は未熟者とされ、社会の一員として認知されなかった。けれども、現在ではニートやフリーターが社会問題になるほど、社会の一員として問題視されている。これは、世の中、そんなよく出来た人間ばかりじゃない、時には失敗もするでしょ。。。という考えを受け入れられる寛容さを持っている証ではないでしょうか？社会の甘えといえれば甘えですが。

出世を望まない若者が増えているといえます。「出世を目指して」入社した世代からは理解しがたく、やる気がないと思われるでしょう。しかし、会社というのは、様々な年代の人々が、ひとつの社会、つまり会社で働くわけですから、そもそも考え方がまとまらなくて当然です。それをまとめるのが、ルールや強制力であり、それにより失われるものが、ヒューマニティーや個性なのです。僕はそう思います。だからこそ、出世して会社の一員として役割が増えるくらいなら、出世しないほうがいい。という意見は納得できます。これは、同じ「働く」なら、給料が高いほうがいいという損得勘定とは別の問題です。

このように協力隊という、僕にとっては社会の一瞬の隙に生まれた空間に入り込み、社会の甘えを味わった経験があっても、7年たっても、僕は僕なんだと実感する2017.12月。もはや、僕が僕であることは人生のテーマとなっています。これから、初心忘れずに、自分だけの居場所を作って、自分らしく暮らしていくつもりです。東沢のみなさん。よいお年を！